

環境経営レポート

2024年度

2024年4月～2025年3月

ご挨拶

建設系産業廃棄物の収集運搬・中間処理施設を、民間業者では初めて札幌市より許可を取得して以来、リサイクルシステムに貢献すべく努力して参りました。引き続き、『地球環境に貢献する』を合言葉に全社一丸となり、積極的に取り組んでいく所存あります。

エコライン株式会社

〒003-0869 北海道札幌市白石区川下 641-170

TEL 011-874-0570 FAX 011-873-2046

E-mail info@ecoline-kk.co.jp

URL <https://www.ecoline-kk.co.jp>

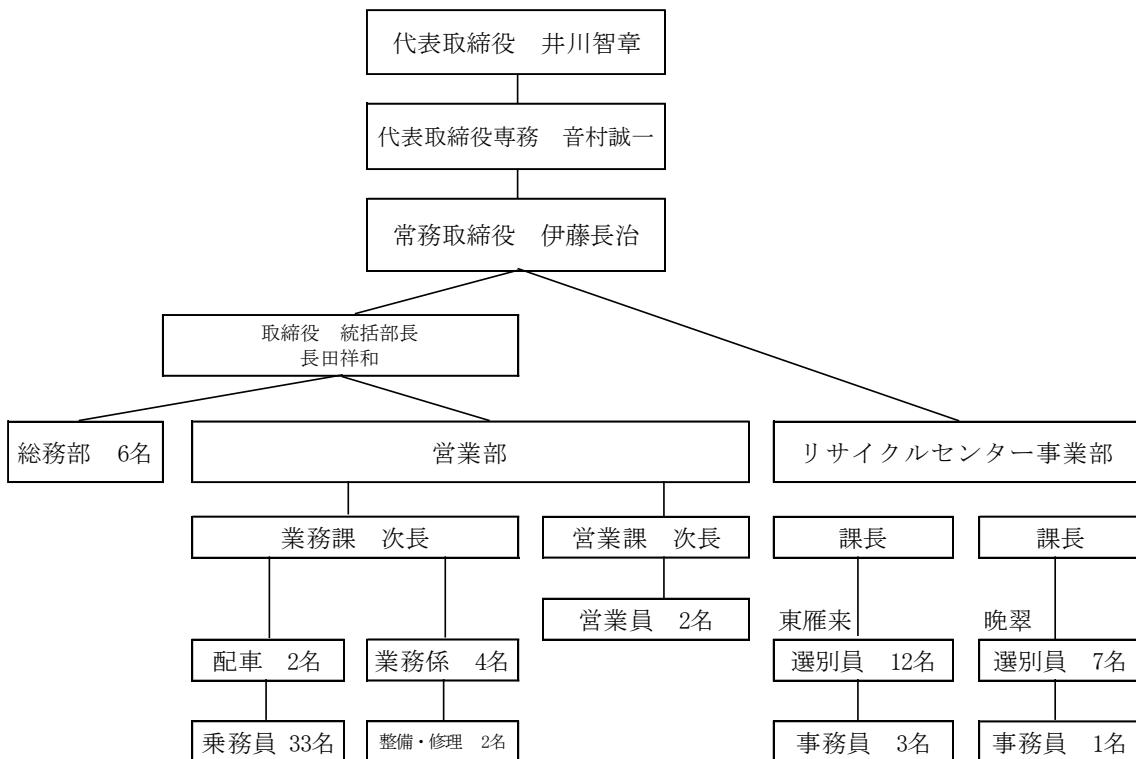
発行日：2025年7月1日

会社概要	2	3	4	5	6	7	8
	別紙1				15	別紙2	16
1. 対象範囲（認証登録）	9						
2. 環境改善活動の取り組み体制	9						
3. 環境に関する基本方針	10						
4. 環境目標と実績	11	12					
5. 環境改善活動の評価及び次年度の取組み	12	13					
6. 法的及び組織が同意するその他の要求事項	14						
7. 2024年度活動の最高責任者の評価と今後の課題	14						
8. 別紙1	15						
9. 別紙2	16						

■ 会社概要

- 会社名：エコライン株式会社
- 所在地：(本社) 北海道札幌市白石区川下641番地170
(東雁来リサイクルセンター) 札幌市東区東雁来町262番地132
(晩翠リサイクルセンター) 空知郡南幌町南10線西14番地
- 代表者氏名：代表取締役 井川 智章
- 事業内容：一般貨物輸送・産業廃棄物の収集運搬及びリサイクル並びに中間処理
- 設立：昭和50年10月24日
- 資本金：60,500,000円
- 売上高：1,835,243千円
- 従業員数：78名
- 敷地面積：本社 15,849.62m²
東雁来リサイクルセンター 18,604.00m²
晩翠リサイクルセンター 16,536.20m²
- 延床面積：本社 486.00m²
東雁来リサイクルセンター 1,200.58m²
晩翠リサイクルセンター 3,070.93m²
- 沿革：
- | | |
|----------|--|
| 昭和42年 | 山本 暉男が個人で運送業を開始。 |
| 昭和50年10月 | 運送免許を取得し株式会社に改組。札幌市白石区北郷より白石区川下に本社を移転。 |
| 平成12年3月 | 湯佐英司が社長に就任し北興グループの一員となる。 |
| 平成18年3月 | 山本山運輸(株)、小林運輸(株)が合併し社名をエコライン(株)とし新たなスタートを切る。 |
| 平成19年8月 | 松下運輸(株)より事業譲渡を受け新生エコライン(株)がスタートする。 |
| 平成21年6月 | 建設系産業廃棄物の一般受入開始。 |
| 平成26年5月 | 井川 智章が社長に就任する。 |
| 平成28年12月 | 空知郡南幌町に晩翠リサイクルセンターオープン。 |

エコライン株式会社 業務機構図



(1) 事業規模

①収集運搬業

- ・運搬車両の種類と台数：49台（ユニック車33台、パッカー車7台、ダンプ車6台、ウイング車1台、塵芥車1台、バン1台）
- ・積替保管施設の有無と面積及び保管上限量：有 空知郡南幌町字幌向原野1013番13、面積 34.17 m²、保管上限93.6 m³
- ・種類（産業廃棄物）

北海道	燃え殻・汚泥・廃油・廃酸・廃アルカリ・廃プラスチック類・紙くず・木くず・繊維くず・ゴムくず・金属くず・ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず・がれき類・ばいじん 以上、石綿含有産業廃棄物であるものを含む。また、水銀使用製品産業廃棄物であるものを含み、燃え殻、汚泥、廃酸、廃アルカリ、ばいじんについては水銀含有ばいじん等であるものを含む。
・種類（特別管理産業廃棄物）	
北海道	廃油・廃酸・廃アルカリ・廃石綿等

②処分業

○東雁来リサイクルセンター

- ・処理施設の種類：選別・圧縮～廃プラスチック類（石綿含有産業廃棄物であるものを除く）
- ・処理する産廃の種類：一般廃棄物及び特別管理産業廃棄物であるものを除く下記の産業廃棄物（工作物の新築、改築、又は除去に伴って生じたものに限る。）

圧縮	廃プラスチック類（石綿含有産業廃棄物であるものを除く）
選別	廃油（アスファルト防水材に限る）・廃プラスチック類・紙くず・木くず・繊維くず・金属くず・ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず・がれき類・石膏ボード

- ・処理能力：選別 160 t/日、圧縮 3.36 t/日
- ・処理方式：中間処理
- ・処理工程図（別紙1）受入⇒手選別⇒搬出先（焼却、破碎、埋め立て）

○晩翠リサイクルセンター

- ・処理施設の種類：破碎・圧縮

圧縮	廃プラスチック類、紙くず
破碎	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類

- ・処理能力：圧縮 ダンボール 6 t/日、廃プラスチック類 4.9 t/日
破碎 廃プラスチック類・42.2 t/日、紙くず・72.3 t/日、木くず・99.4 t/日、繊維くず・21.7 t/日、金属くず・68.1 t/日、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず・180.7 t/日、がれき類・184.5 t/日
木くず（チップ）・76.0 t/日
- ・処理方式：中間処理
- ・処理工程図（別紙2）受入⇒前処理⇒破碎⇒焼却、埋立、壳却

(2) 処理実績

産業廃棄物取扱量 (中間処理)	2022年度		2023年度		2024年度	
	処分実績 単位 (t)	割合 (%)	処分実績 単位 (t)	割合 (%)	処分実績 単位 (t)	割合 (%)
木くず	6,779	19	5,291	13	4,886	12
紙類	337	1	405	1	496	1
金属くず	1,766	5	2,378	6	2,395	6
がれき類	4,152	12	8,336	20	8,460	20
ガラス、コンクリートくず 及び陶磁器くず	1,514	4	2,628	6	2,557	6
石膏ボード	1,938	6	3,463	8	3,809	9
廃プラスチック	6,610	19	5,227	13	7,679	18
纖維くず	27	0	37	0	51	1
廃油	0	0	54	0	0	0
残さ	11,893	34	13,247	33	11,377	27
合計 (t)	35,016	100	41,066	100	41,710	100

収集運搬 (当社中間処理)	2022年度		2023年度		2024年度	
	運搬実績 単位 (t)	割合 (%)	運搬実績 単位 (t)	割合 (%)	運搬実績 単位 (t)	割合 (%)
木くず	4,667	24	2,647	14	2,722	12
紙類	241	1	255	1	352	2
金属くず	1,209	6	1,268	7	1,394	6
がれき類	3,182	16	5,104	27	5,937	26
ガラス、コンクリートくず 及び陶磁器くず	4,168	22	5,067	27	5,215	20
石膏ボード	1,923	10	1,603	8	1,951	14
廃プラスチック	3,767	19	2,997	16	5,080	19

繊維くず	300	2	18	0	21	1
廃油	0	0	24	0	0	0
合計 (t)	19,457	100	18,983	100	22,672	100

収集運搬 (運搬のみ) (t)	2022年度		2023年度		2024年度	
	運搬実績 単位 (t)	割合 (%)	運搬実績 単位 (t)	割合 (%)	運搬実績 単位 (t)	割合 (%)
木くず	120	10	37	6	108	12
紙類	9	1	2	0	0	0
金属くず	11	1	1	0	0	0
がれき類	825	70	446	69	569	64
ガラス、コンクリートくず 及び陶磁器くず	88	7	34	3	69	8
石膏ボード	22	2	21	9	16	2
廃プラスチック	81	7	59	5	80	9
繊維くず	0	0	0	0	0	0
廃油	2	0	11	2	13	1
汚泥	2	0	15	2	20	2
その他	17	1	17	3	2	1
小計 (t)	1,177	99	643	99	877	99
特管物	1	1	6	1	12	1
合計 (t)	1,178	100	649	100	889	100

収集運搬 (運搬のみ) (m ³)	2022年度		2023年度		2024年度	
	運搬実績 単位 (m ³)	割合 (%)	運搬実績 単位 (m ³)	割合 (%)	運搬実績 単位 (m ³)	割合 (%)
廃プラスチック	57	28	4	50	1	100
ガラス、コンクリートくず 及び陶磁器くず	0	0	0	0	0	0
廃油	17	8	4	50	0	0
廃アルカリ	127	63	0	0	0	0
がれき類	1	1	0	50	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
合計 (m ³)	202	100	8	100	1	100

再資源化	2022年度		2023年度		2024年度	
	再資源化 実績	割合	再資源化 実績	割合	再資源化 実績	割合
	単位 (t)	(%)	単位 (t)	(%)	単位 (t)	(%)
木くず	6,779	50	5,291	33	4,886	31
紙類	337	2	405	3	496	3
繊維くず	27	0	33	0	38	1
石膏ボード	1,541	11	3,055	19	3,059	20
廃プラスチック	787	6	949	6	1,855	12
金属くず	1,766	13	2,378	15	2,395	15
がれき類	2,104	16	3,743	23	2,670	17
その他	236	2	217	1	243	1
合計 (t)	13,577	100	16,071	100	15,642	100

（3）廃棄物の処理料金

- ・運搬距離、廃棄物内容、回収形態等により、都度見積を行う。

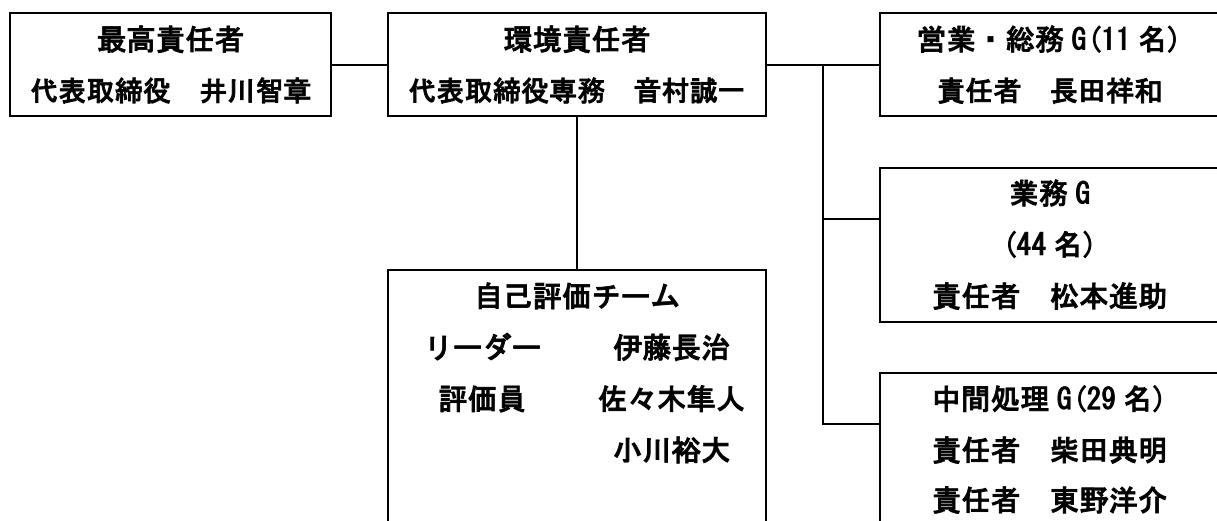
（4）許認可一覧

許可証	内容	有効期限	自治体名
一般区域貨物自動車運送事業：札陸自第 2329 号 許可年月日：昭和 50 年 10 月 9 日	貨物輸送		陸運局
産業廃棄物収集運搬業許可番号：第 00110018732 号 許可年月日：平成元年 11 月 14 日	・収集運搬	令和 12 年 2 月 24 日	北海道
特別管理廃棄物収集運搬業許可番号：第 00150018732 号 許可年月日：平成 23 年 3 月 4 日	・収集運搬	令和 12 年 3 月 3 日	北海道
産業廃棄物処分許可番号：第 05120018732 号 許可年月日：昭和 51 年 4 月 28 日	・選別 ・圧縮	令和 12 年 3 月 7 日	札幌市
一般廃棄物収集運搬業許可番号：札清一廢抜根許可第 9 号 許可年月日：平成 4 年 4 月 1 日	・収集運搬	令和 9 年 7 月 3 日	札幌市
産業廃棄物処分許可番号：第 00120018732 号 許可年月日：平成 28 年 12 月 10 日	・圧縮 ・破碎	令和 10 年 12 月 9 日	北海道

1. 対象範囲（認証・登録）

- 対象組織 本 社 : 北海道札幌市白石区川下641番地170
東雁来リサイクルセンター : 北海道札幌市東区東雁来町262番地132
晩翠リサイクルセンター : 北海道空知郡南幌町南10線西14番地
- HES適用範囲 : 一般貨物自動車運送業、一般廃棄物（伐採物、抜根等）収集運搬、
産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物の収集運搬、建設廃棄物及び産業廃棄物
の中間処理
- EA21適用範囲 : 産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物の収集運搬、産業廃棄物の中間処理

2. 環境改善活動取り組み体制



- 管理責任者 音村 誠一 連絡先 011-874-0570
○HES担当者 音村 誠一 連絡先 011-874-0570

3. 環境に関する基本方針

環境に関する基本方針

<基本理念>

エコライン株式会社は、事業運営と地球環境の保全両立し、住み良い北海道の地域社会を実現するために、全組織を挙げて環境改善活動に取り組みます。

<方針>

エコライン株式会社は、産業廃棄物の収集運搬、処分業及びそれに関するサービスの提供により発生する環境影響を低減するために、次の方針に基づき、環境改善活動を推進します。

1. 当社の活動、製品及びサービスが関わる環境への影響を常に認識し、全事業所において環境マネジメントシステムを継続的に改善し、汚染の予防にも努めます。
2. 環境に関する法的及び当社が同意するその他の要求事項を順守します。
3. 当社の活動、製品及びサービスが関わる環境影響要因のうち、以下の項目を環境改善活動の重点テーマとして取り組みます。
 - (1) 二酸化炭素排出量の削減（電気使用量、車両燃料使用量の削減）
 - (2) 水資源の保全（一般水道水の使用量の削減）
 - (3) 循環型社会への対応（産業廃棄物のリサイクル率の向上）
 - (4) グリーン購入の推進
4. この環境に関する基本方針は、全従業員が理解し、行動出来るよう周知徹底とともに、社外にも公表します。
5. 地域密着型の環境保全活動に積極的に参画します。

この環境に関する基本方針を達成し、環境パフォーマンスを向上させるために、環境目標を設定し、当社の全従業員をあげて、環境改善活動を展開するとともに、定期的に見直しを実施します。

2023年4月1日 制定
エコライン株式会社

代表取締役 井川 智章

4. 環境目標と実績（H E S 適用範囲）（2024 年度）2024/4～2025/3

環境改善活動	具体的施策	目標値	実績値	評価
電気使用量の削減 2024 年度まで基準年度 2021 年度比 2% の削減	・冷暖房温度の設定 ・休憩時間の消灯 ・不要電源 OFF の励行	217,735 k W h／年	176,049 k W h／年	A
水の使用量の削減 2024 年度まで基準年度 2021 年度比 2% の削減	・車輌洗車時の適正使用 ・節水パーツの利用	533 m ³ ／年	542 m ³ ／年	B
廃棄物排出量の削減 産業廃棄物リサイクル率の向上 2024 年度までに 1% 引き上げる (基準年度 2021 年度 35.0%)	・分別の徹底 ・廃プラスチック内訳見直し	36.0%／年	38.1%／年	A
グリーン購入 低排出ガス認定かつ燃費基準達成車への入替促進 2024 年度まで目標 2 台	・トラック 2 台	2 台／年	5 台／年	A
軽油使用量の削減 走行 1 km当たりの使用量を 2024 年度までに 2021 年度比 1.5% 削減する (基準年度 2021 年度 0.328ℓ/1km)	・アイドリング ストップ ・運行効率の確保	0.324ℓ／ km (総量 379,597ℓ)	0.321ℓ／ km (総量 379,597ℓ)	A
ガソリン使用量の削減 営業収入 1 百万円あたりの使用量を 2021 年度比 1% 削減する (基準年度 2021 年度 5.93ℓ/1 百万円)	・アイドリング ストップ ・効率的営業の展開	5.87ℓ／ 百万円 (総量 7,474ℓ)	4.33ℓ／ 百万円 (総量 7,474ℓ)	A
二酸化炭素排出量の削減 2024 年度までに 2021 年度比 1% 削減する (基準年度 2021 年度 1,647 千 kg -CO ₂)	・電気・化石燃料使用量の削減	1,630 千 kg -CO ₂	1,588 千 kg -CO ₂	A

※取組スタートは 2021 年 6 月

※評価基準 A : 達成率 100% 以上

B : 達成率 90%～100% 未満

C : 達成率 90% 未満

※化学物質管理 年間使用量が少量のため、削減目標は設定せず、法順守等管理のみを行う。

中期環境目標（2023～2025年度）

項目	基準年度 2021年度	環境目標			環境目的
		2023年度	2024年度	2025年度	
省エネルギー	消費電力 222,179 kwh/ 年	219,957 kwh/年	217,735 kwh/年	215,513 kwh/年	2025年度まで に、3%/年削減 する。
省資源	水の使用量 544 m ³ /年	538 m ³ /年	533 m ³ /年	527 m ³ /年	2025年度まで に、3%/年削減 する。
産業廃棄物の 排出	リサイクル率 年 35.0%	35.5%/年	36.0%/年	36.5%/年	2025年度まで に1.5%引上げ る。
グリーン購入	排ガス規制車の 導入	トラック等 2台	トラック等 2台	トラック等 2台	2025年度まで にトラック等 6台購入する。
省エネルギー	1kmあたり の軽油の使用 量 0.328ℓ/1km	0.326 ℓ/km	0.324 ℓ/km	0.323 ℓ/km	2025年度まで に1.5%削減す る。
省エネルギー	売上百万円あたり のガソリンの使用 量 5.93ℓ/百万円	5.90 ℓ/百万円	5.87 ℓ/百万円	5.84 ℓ/百万円	2025年度まで に1.5%削減す る。
二酸化炭素 排出量削減	2021年度排出量 1,647千kg-CO ₂	基準年度から 0.5%削減する。 1,638千kg-CO ₂	基準年度から 1.0%削減する。 1,630千kg-CO ₂	基準年度から 1.5%削減する。 1,622千kg-CO ₂	2025年度まで に、1.5%削減 する。

5. 環境改善活動の評価及び次年度の取組み

【電気使用量の削減】

○電気使用量は削減目標を達成しました。本社は、昼休みの消灯等節電に努め、電気使用量が前年比6%減少しました。晩翠リサイクルセンターは、チップ製造量が減少したため、前年比で12%使用量が減少しました。東雁来リサイクルセンターは、電気使用量は微増で推移しました。日常の休憩時間の消灯・省エネ機器への移行等の細やかな取組みは定着しています。

2025年度も節電に取組み、電気使用量の削減に向けて一層努力していきます。

【水の使用量の削減】

○水の使用量は目標に対して 9 m³目標を上回り、目標を達成できませんでした。2024年は、晩翠リサイクルセンター堆積棟新築、本社改修工事等の影響により使用量が増加したことが主な要因です。2025年度も引き続き節水に取組み、水の使用量を削減していきます。

【廃棄物排出量の削減】

○廃棄物排出量の削減は目標を達成しました。

処理量が前年比 644 t 増加するなか、全体のリサイクル率は 1 % 低下しましたが、廃プラスチックの再資源化率は 6 % 上昇しました。

2025年度も引き続き、選別精度の維持・向上を図り、リサイクル率を向上していきます。

【グリーン購入】

○排ガス規制基準を満たしたトラックを 5 台購入し、目標を達成できました。

2025年度もトラック 4 台の入替を実施予定で計画を達成できる見通しです。

【軽油使用量の削減】

○アイドリングストップの他効率の良い AI 配車の導入に取り組み、走行 1 kmあたり軽油使用量は、0.003 ℓ目標を上回りました。

2025年度も、デジタコや AI 配車の有効活用により適正速度・効率の良い配車での運行を徹底し、目標を達成出来るよう取組んでいきます。

(総量 379, 597 ℓ)

【ガソリン使用量の削減】

○営業担当者の減少により、ガソリンの使用量は前年比 1, 265 ℓ減少しました。一方、札幌市内の再開発等による廃棄物処理量の増加に伴い、売上高は增收で推移し、大幅に目標を達成できました。

2025年度も、効率的な営業を推進していきます。

(総量 7, 474 ℓ)

【二酸化炭素排出量削減状況】（電力の CO₂ 排出計数は北海道電力㈱の 2018 年度実績 0.656 kg-CO₂/kwh を使用）

○二酸化炭素排出量は 1, 588 千 kg-CO₂ となり、前年 1, 582 千 kg-CO₂ に対して、6 千 kg-CO₂ 微増となりましたが、目標は達成できました。軽油の使用料は前年比 7 % 増加しましたが、電気を再生可能エネルギーに切り替えたことが目標達成の要因です。

燃料の使用量を削減し、更なる二酸化炭素排出量抑制製品の導入により二酸化炭素排出削減に向けて一層努力していきます。

6. 法的及び当社が同意するその他要求事項

○当社の事業活動に該当する環境に関する法的及び当社が同意するその他の要求事項については、順守状況を定期的に確認しております。利害関係者からの指摘、訴訟等はありません。

<順守した法律>

廃棄物の処理及び清掃に関する法律・令・規則、廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則（北海道）、計量法、札幌市火災予防条例、道路運送車両の保安基準、フロン排出抑制法、建設工事に係る再資源化等に関する法律、プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律

7. 2024年度活動の最高責任者の評価と今後の課題

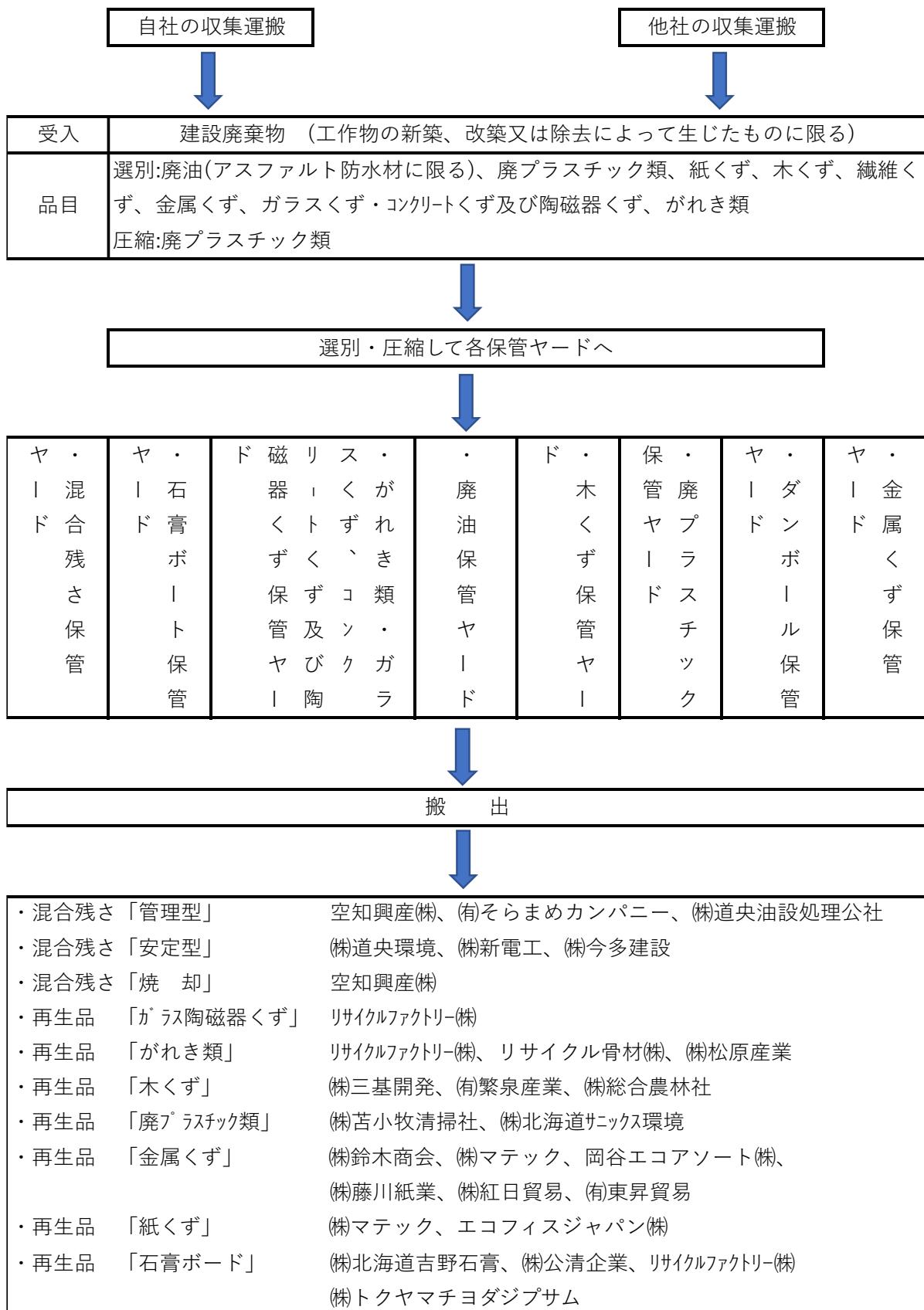
○2024年度は、建設業界においては2024年問題の取組みがスタートし、建築費の高騰・人手不足等の影響がありましたが、札幌駅前再開発等の大型プロジェクトの進行により、建設廃棄物を含む産業廃棄物の処理量は前年並みに推移しました。このような環境の中、各部門は環境目標達成に向けて取組み、電気使用量の削減・廃棄物排出量の削減・グリーン購入・軽油使用量の削減・ガソリン使用量の削減・二酸化炭素(CO₂)排出量削減の各目標を達成できました。一方、水の使用量の削減は、節水に取組みましたが、晩翠リサイクルセンター堆積棟新築・本社改修工事等により使用量が増加し、目標に届きませんでした。目標を達成できなかった項目については、次年度の課題として取組んで参ります。

○2050年の国のかーボンニュートラルの実現に向けて、当社においても二酸化炭素(CO₂)排出量の削減に向けた取組を進めています。2024年5月から、収集運搬車両においてバイオディーゼル燃料と軽油を混合したB5軽油(出光バイオディーゼル5)の実証試験に参加しています。また、2024年8月からは電力を再生可能エネルギーに切り替えるなど取組を継続しています。

○2025年度に入り、札幌市内は、北海道新幹線札幌延伸の遅れ・建築費の高騰・人手不足等の影響により、建設業者の受注にやや停滞感が出ています。一方、千歳・恵庭・北広島方面は、ラピダス及び北海道ボールパーク関連事業等により建設着工が見込まれ、産業廃棄物の処理量は前年程度を維持していくと想定しております。弊社は、これからも必要な設備投資を行い、リサイクル率を高め、収益を維持向上していく方針です。最終処分場は限られており可能な限りリサイクルを行い、事業拡大及び業績の向上に努め「地球環境」に貢献していきます。

地球環境に貢献する **E-Line**
○エコライン株式会社○

中間処理施設(選別・圧縮)処理工程(東雁来リサイクルセンター)



中間処理施設(破碎・圧縮)処理工程(晩翠リサイクルセンター)

